



登米地域の稲作通信 第7号

令和6年7月22日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127

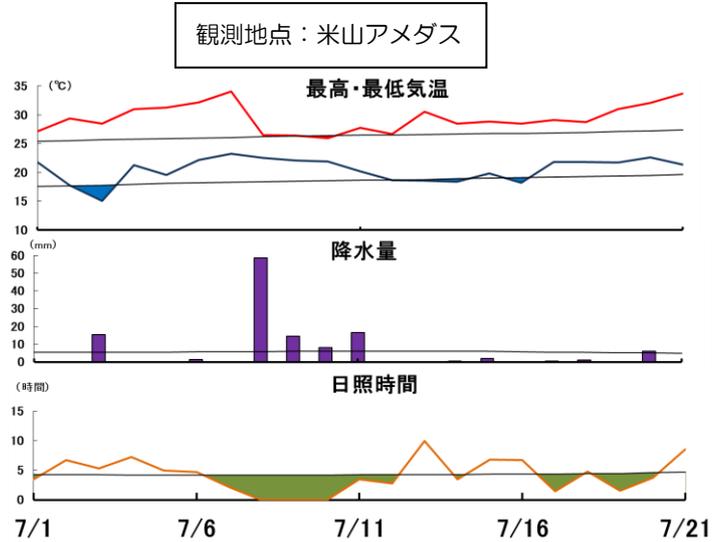


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

7月中旬の気温は上旬に引き続き、平年よりも高い傾向で推移しました。降水量は平年比46%と少雨となりました。日照時間は曇りの日もありましたが、平年比102%と概ね平年並となりました。

東北南部の平年の梅雨明けは7月24日頃となっています。7月22日時点では本年の梅雨明けは発表されていません。



【移植栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点	栽植 密度 (株/m ²)	移植日	7月10日				7月19日			
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	5月19日 前年比・差 +5日 平年比・差 +4日	63.1 100% 102%	510.4 106% 101%	43.4 3.3 1.7	0.8 -0.9 0.2	77.0 103% 109%	494.5 103% 101%	40.4 3.9 2.2	5.6 -57.7 -15.7
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	5月16日 前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日	65.4 105% 110%	521.6 112% 105%	41.6 4.1 0.9	2.8 0.5 1.9	80.0 110% 116%	473.6 103% 99%	37.5 3.3 0.4	16.7 -37.4 -15.6
3	ひとめぼれ (晩期栽培)	-	米山町	20.8	5月29日 前年比・差 — 平年比・差 —	43.8 — —	349.4 — —	43.9 — —	— — —	63.8 — —	395.2 — —	44.7 — —	1.0 — —
4	ササニシキ (復活ササニシキ)	Cタイプ	豊里町	14.8	5月13日 前年比・差 +1日 平年比・差 +1日	59.3 98% 101%	448.4 91% 83%	36.9 -0.1 -1.5	0.9 -0.3 0.2	72.2 101% 106%	380.4 89% 80%	34.1 1.0 -0.9	15.4 -39.9 -20.5
5	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	5月6日 前年比・差 — 平年比・差 —	69.2 — —	485.0 — —	33.5 — —	1.2 — —	80.8 — —	475.8 — —	35.1 — —	22.2 — —
6	だて正夢	-	迫町	19.3	5月14日 前年比・差 -7日 平年比・差 -1日	69.2 99% 99%	461.3 90% 89%	39.1 -1.1 -0.3	1.7 1.4 1.2	78.8 99% 101%	445.8 92% 92%	37.7 3.0 -0.7	20.5 14.5 9.4
7	金のいぶき	-	登米町	16.5	5月14日 前年比・差 +5日 平年比・差 +2日	71.5 98% 98%	645.2 123% 115%	40.3 4.7 3.2	0.7 -0.4 0.1	85.0 100% 101%	546.2 106% 104%	37.1 5.0 3.9	11.8 -49.4 -20.4
8	つきあかり	-	豊里町	19.3	5月4日 前年比・差 — 平年比・差 —	79.4 — —	351.3 — —	37.9 — —	39.0 — —	87.0 — —	332.0 — —	34.9 — —	204.0 — —

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

※ひとめぼれ(晩期栽培)、つや姫、つきあかりは調査1年目のため、本年値のみ。

7月19日現在の生育状況は、管内の生育調査ほのひとめぼれについては、草丈、葉色が平年を上回り推移しています。晩期栽培のひとめぼれは幼穂形成期に達しています。生育調査ほのひとめぼれ、ササニシキ、金のいぶきの幼穂長は平年を下回って推移していますが、間もなく減数分裂期に入ると見込まれます。つきあかりは幼穂長が200mmを超えており、穂ばらみ期となっています。

【直播栽培】

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		苗立ち本数 (本/m ²)	7月10日			7月19日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ササニシキ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町	4月26日		79.1	56.1	566.1	36.3	70.9	472.9	35.2	5.4
					前年比・差	70%	116%	129%	-3.4	101%	105%	-0.8	1.8
					平年比・差	103%	109%	121%	-3.0	101%	101%	-2.4	1.6

※ササニシキは調査4年目のため過去3か年の平均値を使用。

7月19日現在の生育状況は、草丈、茎数は概ね平年並で推移しています。幼穂長は5mm以上に伸長し、幼穂形成期に達しています。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

アメダスの平均気温を用いた生育ステージの予測です。

「稲作通信 第6号」に掲載した出穂期の予測日よりも早まっているため注意しましょう。

生育ステージの予測値(7月22日現在)

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
出穂期	7/20~7/24	7/22~7/26	7/26~7/29	7/29~8/2	8/2~8/6	8/6~8/10

※主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。
平均気温は7月21日までの米山アメダスの実測値。

幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1~2mm	/
減 数	始期	15日前	3~4cm	
分裂期	終期	10日前	8~10cm	±0cm

(2) 水管理

①出穂前までは間断かん水を基本とします。

②出穂期間中は浅水管理とし、その後は登熟後期まで根の活力を維持するため、間断かん水や飽水管理を行きましょう。

【高温時の水管理】

出穂期以降、夜温が高いと湛水管理では夜間の水温が下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまい、白未熟粒の発生を助長させます。飽水管理は登熟期間が高温のとき、地温の上昇抑制に効果的で白未熟粒や胴割粒の発生を抑制できます。

☆飽水管理の方法

①水尻を閉める。畦畔からの漏水がないか確認する。

②田面が浸るくらい(ひたひた)に水を入れる。

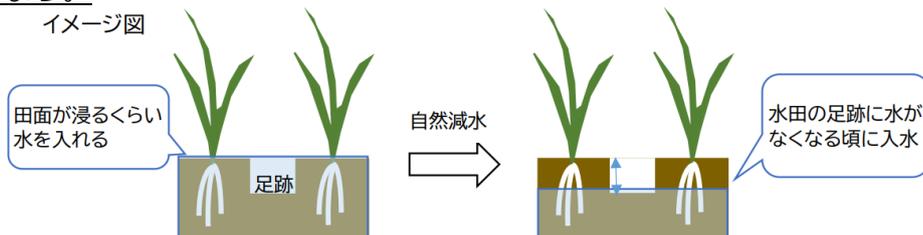
③水を止めたら、水尻は閉めたまま、自然減水させる。

④水田の足跡に水がなくなる頃、または番水のタイミングで次の水を入れる。

(目安は3~5日おき)

※出穂期前後は稲体が最も水を必要とする時期です。飽水管理を徹底し、土壌を湿った状態に保ちましょう。

イメージ図



(3) 病害虫防除

いもち病対策

<発生予報第5号 7月22日 宮城県病害虫防除所>

◆葉いもち

発生量 「やや少」

- ・巡回調査の結果、発生は確認されなかった。

◆穂いもち

発生時期 「平年並（7月第6半旬：7/26～7/31）」

発生量 「やや少」

<令和6年度BLASTAM（7月1日～7月17日） 宮城県病害虫防除所>

- ・米山においてはBLASTAMによる感染好適条件の出現状況は、7/9に「準好適条件1」、7/15に「好適条件」が出現しています。

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/9	-	●	●	○	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-
7/10	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/15	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件からはずれている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

いもち病の予防剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下してくる時期です。葉色の濃い場合は上位葉の葉いもちの発生に注意しましょう。また、上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源となります。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください（環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談ください）。穂いもちは、出穂直後が最も感染しやすいので、適期を逃さないように防除を行いましょう。

紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。防除時期は出穂直前の穂ばらみ期（7月下旬ごろ）です。いもち病との同時防除が可能な薬剤での対応も可能です。

斑点米カメムシ類の防除

<注意報 第1号 7月19日 宮城県病害虫防除所>

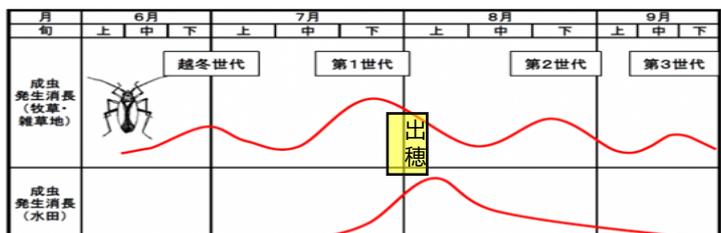
◆斑点米カメムシ類 予想発生量「多」

発生時期「早い（第2世代成虫発生盛期：8月第2半旬）」

- ・巡回調査の結果、周辺草地及び本田におけるアカスジカスミカメ成虫、ホソハリカメムシ成幼虫及びクモヘリ カメムシ成虫の発生地点率は平年より高く、すくいとり虫数は平年より多かった。
- ・高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。

薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回が基本です。

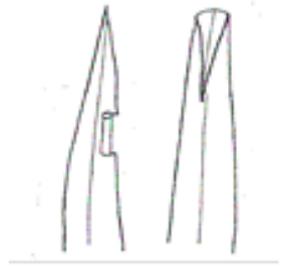
直播栽培の出穂期は移植栽培より7～10日遅くなりますので、防除時期を逃さないよう注意しましょう。



イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。防除適期は第2世代若齢幼虫発生盛期（7月下旬～8月上旬）です。株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行きましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。特に、葉色の濃い稲や生育ステージの遅い稲（直播栽培を含む）を好んで産卵する傾向があるため、該当する場合は注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

（４）追肥

本年の施肥窒素の減少は平年、前年よりも早くなっています。基肥一発肥料を施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、減数分裂期追肥を行きましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分含有率（％）	施用時期	施用現物量 （化学肥料窒素成分量）
NK化成C68号	16.0	減数分裂期（出穂10～15日前）	10kg/10a (1.6kg/10a)

表 追肥時期別の施肥量

品 種	幼穂形成期（出穂25～20日前） ＜幼穂長：1～2mm＞		減数分裂期（出穂15～10日前） ＜幼穂長：3～12cm＞	
	窒素成分量	現物量 （NK化成C68号の場合）	窒素成分量	現物量 （NK化成C68号の場合）
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0kg/10a	6.3kg/10a	1.0kg/10a	6.3kg/10a
ササニシキ	—	—	1.0～1.5kg/10a	6.3～9.4kg/10a
だて正夢	—	—	2.0kg/10a	12.5kg/10a
つや姫	2.0kg/10a	12.5kg/10a	—	—
つきあかり	1.0～2.0kg/10a	6.3～12.5kg/10a	1.0～2.0kg/10a	6.3～12.5kg/10a

※金のいぶきの場合、穂揃期追肥（窒素成分 1kg/10a）により、登熟後半まで葉色が維持され登熟歩合が向上し収量の増加が期待できます。

【東北地方の向こう1か月の天気予報】 令和6年7月18日 仙台管区气象台 発表

東北地方 1か月予報（07/20～08/19）		
2024年07月18日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 07/20～08/19	天候	東北日本海側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 07/20～07/26	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 07/27～08/02	気温	2週目は、高い確率50%です。
3～4週目 08/03～08/16	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。
農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。